

# サンプル

～10のルールで読み解く～

初めての人のための「決算書の読み方入門」研修



講 師

森 真一

## 目次

### ルール1 決算書には2人の主役がいる！

- (1) 貸借対照表 (BS) . . . . . P4
- (2) 損益計算書 (PL) . . . . . P5

### ルール2 BSには3つの家と6つの部屋！

- (1) BSの3つの家と6つの部屋 . . . . . P6
- (2) 資産 (流動資産・固定資産・繰延資産) . . . . . P7
- (3) 負債 (流動負債・固定負債) . . . . . P7
- (4) 純資産 (自己資本) . . . . . P7

### ルール3 流動資産と固定資産の掟！

- (1) 流動資産の掟 . . . . . P7
- (2) 固定資産の掟 . . . . . P8

### ルール4 流動負債と固定負債の掟！

- (1) 流動負債の掟 . . . . . P9
- (2) 固定負債の掟 . . . . . P9

### ルール5 自己資本と他人資本の掟！

- (1) 自己資本の掟 . . . . . P10
- (2) 他人資本の掟 . . . . . P10

### ルール6 BSの重要な公式！

- (1) 純資産 = 資産 - 負債 . . . . . P10

## ルール7 PLの5つの利益の掟！

- (1) 売上総利益 . . . . . P11
- (2) 営業利益 . . . . . P11
- (3) 経常利益 . . . . . P12
- (4) 税引前当期純利益 . . . . . P12
- (5) 当期純利益 . . . . . P12

## ルール8 経営分析の3つの重要指標！

- (1) 自己資本比率 . . . . . P12
- (2) 流動比率 . . . . . P13
- (3) 売上高営業利益率 . . . . . P13

## ルール9 経営効率分析の2つの重要指標！

- (1) ROE (自己資本利益率) . . . . . P13
- (2) ROA (総資産利益率) . . . . . P14

## ルール10 最後の大物キャッシュフロー計算書！

- (1) 営業キャッシュフロー . . . . . P16
- (2) 投資キャッシュフロー . . . . . P16
- (3) 財務キャッシュフロー . . . . . P16

## 経営分析・経営効率分析 (計算演習)

### 【経営分析】

- (1) 自己資本比率 . . . . . P19
- (2) 流動比率 . . . . . P19
- (3) 売上高営業利益率 . . . . . P19

**【経営効率分析】**

- (1) ROE (自己資本利益率) . . . . . P19
- (2) ROA (総資産利益率) . . . . . P19

**【応用問題】**

- (1) 自己資本比率 . . . . . P21
- (2) 流動比率 . . . . . P21
- (3) 売上高営業利益率 . . . . . P21
- (4) ROE (自己資本利益率) . . . . . P21
- (5) ROA (総資産利益率) . . . . . P21

## ルール1 決算書には2人の主役がいる！

決算書には2人の主役がいます。

1人目は日本名、貸借対照表（たいしゃくたいしょうひょう）

通称（BS）【バランスシート】と呼ばれています。

役割は会社の財政状態を報告することです。

### 【サンプル①】

### 貸借対照表

【単位：百万円】

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産	6,907	流動負債	1,688
固定資産	2,110	固定負債	582
有形固定資産	555	<b>負債合計</b>	<b>2,270</b>
無形固定資産	67	株主資本	6,713
投資その他の資産	1,488	資本金	1,539
		資本剰余金	1,722
		資本準備金	1,722
		利益剰余金	3,452
		利益準備金	122
		その他利益剰余金	3,330
		評価・換算差額等	34
		その他有価証券評価差額金	34
		<b>純資産合計</b>	<b>6,747</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,017</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,017</b>

(2) 損益計算書 (PL)

2人目は日本名、損益計算書 (そんえきけいさんしょ)

通称 (PL) 【プロフィット&ロス・ステートメント】と呼ばれています。

役割は会社の経営成績 (儲けや損失)を報告することです。

【サンプル②】

**損益計算書**

【単位:百万円】

科目	金額
①売上高	11,352
②売上原価	2,165
<b>③売上総利益</b>	<b>9,187</b>
④販売費及び一般管理費	7,681
<b>⑤営業利益</b>	<b>1,506</b>
⑥営業外収益	17
⑦営業外費用	62
<b>⑧経常利益</b>	<b>1,461</b>
⑨特別利益	50
⑩特別損失	97
<b>⑪税引前当期純利益</b>	<b>1,414</b>
⑫法人税、住民税及び事業税	651
⑬法人税等調整額	△ 38
<b>⑭当期純利益</b>	<b>801</b>

## ルール2 BSには3つの家と6つの部屋！

(1) BSの3つの家と6つの部屋

◆BSには①資産 ②負債 ③純資産という3つの家があります。

① 資産	② 負債
	③ 純資産

◆資産には流動資産・固定資産・繰延資産という3つの部屋があります。

◆負債には流動負債・固定負債という2つの部屋があります。

◆純資産には部屋が1つしかありません。

流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
繰延資産	純資産

(2) 資産（流動資産・固定資産・繰延資産）

資産には会社の財産としてのお金の使い方が記録されています。

そして、財産の種類に応じて流動資産・固定資産・繰延資産の3つに分類されます。

(3) 負債（流動負債・固定負債）

負債には会社の借金としてのお金の集め方が記録されています。

そして、借金の種類に応じて流動負債・固定負債の2つに分類されます。

(4) 純資産

純資産には会社の正味財産としてのお金の集め方が記録されています。

正味財産は返さなくていいお金である、株主資本（資本金等）と内部留保（利益剰余金）が主に記録されています。

**ルール3 流動資産と固定資産の掟！**

(1) 流動資産の掟

流動資産には、1年以内に現金化する財産が記録されています。

例えば、現金、普通預金、有価証券、売掛金、商品等の財産が記録されています。

そして、現金化しやすい財産ほど上位に書かれています。



【流動資産】

現金  
普通預金  
当座預金  
定期預金  
受取手形  
売掛金  
有価証券  
商品  
製品

(2) 固定資産の掟

固定資産には、1年以内には現金化しない財産が記録されています。

例えば、土地、建物等の有形固定資産、ソフトウェア、長期前払費用等の無形固定資産、長期貸付金、子会社株式等の投資その他の資産に代表される財産が記録されています。

そして、現金化しやすい財産ほど上位に書かれています。

【固定資産】

土地（有形固定資産）  
建物（有形固定資産）  
建設仮勘定（有形固定資産）  
工具器具備品（有形固定資産）  
機械器具（有形固定資産）  
ソフトウェア（無形固定資産）  
長期前払費用（無形固定資産）  
長期貸付金（投資その他の資産）  
子会社株式（投資その他の資産）

## ルール4 流動負債と固定負債の掟！

### (1) 流動負債の掟

流動負債には、1年以内に返済する必要がある借金（債務）が記録されています。

例えば、支払手形、買掛金、短期借入金等の借金（債務）が記録されています。

そして、返済の順番が早いものほど上位に書かれています。

#### 【流動負債】

支払手形  
買掛金  
短期借入金  
未払金  
未払費用  
前受金  
預かり金  
前受収益  
賞与引当金

### (2) 固定負債の掟

固定負債には、返済期限が1年を超えている長期間の借金（債務）が記録されています。

例えば、社債、長期借入金、退職給付引当金等の借金（債務）が記録されています。

そして、返済の順番が早いものほど上位に書かれています。

## 【固定負債】

社債 長期借入金 退職給付引当金 役員退職慰労引当金
-------------------------------------

## ルール5 自己資本と他人資本の掟！

### (1) 自己資本の掟

自己資本とは純資産として記録されている株主資本（資本金等）や利益剰余金等を合算した返済の必要がない正味財産のことです。

### (2) 他人資本の掟

他人資本とは総資本（総資産）から自己資本を引いた返済の必要のある借金（債務）のことです。

つまり、流動負債と固定負債を合算した負債と等しくなります。

他人資本＝（総資産－自己資本）＝（流動負債＋固定負債）

## ルール6 BSの重要な公式！

### (1) 純資産＝資産－負債

BSの最も重要な公式を覚えましょう。

◆純資産＝資産－負債

これを移行すると以下ようになります。

資産＝負債＋純資産

負債＝資産－純資産

※資産＝（負債＋純資産）左右の数字が等しいことからバランスシートと呼びます。

【貸借対照表＝BS】

資産	負債
	純資産

### ルール7 PLの5つの利益の掟！

(1) 売上総利益 P5参照 ③＝①－②

(売上高)－(売上原価)

つまり売上高から原材料費等の原価を引いた利益です。

粗利益とも呼ばれるものです。

(2) 営業利益 P5参照 ⑤＝③－④

(売上総利益)－(販売管理費)

つまり売上総利益から人件費を含むすべての経費を引いた利益です。

これが本業で稼いだ利益になります。

(3) 経常利益 P5参照 ⑧=⑤+⑥-⑦

(営業利益) + (営業外収益) - (営業外費用)

つまり営業利益に本業以外の損益を合算した利益です。

本業でいくら稼いでも本業以外の損益によっては利益が減少します。

いわゆる、財テク等が営業外収益になります。

(4) 税引前当期純利益 P5参照 ⑪=⑧+⑨-⑩

(経常利益) + (特別利益) - (特別損失)

経常利益に特別損益を合算させた税金を払う前の利益です。

つまり会社員の給料で言えば総支給になります。

(5) 当期純利益 P5参照 ⑭=⑪-⑫+⑬

税金を払った後の正味の利益になります。

つまり会社員の給料で言えば手取り支給額になります。

※重要なのは営業利益です。

本業の儲けを示すものですからこの利益が赤字なら抜本的な構造改革が必要であることを意味します。

## ルール8 経営分析の3つの重要指標！

(1) 自己資本比率

自己資本比率とは総資産（総資本）に対する自己資本（株主資本+評価・換算差額等）の比率のことです。

自己資本÷総資産（総資本）×100で算出します。

一般に自己資本比率が高いほど負債（借金）が少ないことになりやすから経営基盤が強いものと判断されます。

〔練習問題1〕

【サンプル①】貸借対照表（BS）の自己資本比率を算出してみましょう。

( )

## (2) 流動比率

短期的な資金繰り（返済能力）を見るには流動比率を計算します。

これは流動資産÷流動負債×100で算出します。

理想的なのは200%とされていますが業種により一概には言えません。

### 〔練習問題2〕

【サンプル①】貸借対照表（BS）の流動比率を算出してみましょう。

( )

## (3) 売上高営業利益率

本来の営業活動による利益率であり、本業の収益性が高いかどうかを判断します。

営業利益÷売上高×100で算出します。

この比率を同業他社と比較することで販管費の効率性を知ることができます。

### 〔練習問題3〕

【サンプル②】損益計算書（PL）の売上高営業利益率を算出してみましょう。

( )

## ルール9 経営効率分析の2つの重要指標！

## (1) ROE（自己資本利益率）（リターンオンエクイティ）

収益性分析で用いられる株価指標の一つであり株主資本に対する当期純利益の比率です。

当期純利益÷自己資本×100で算出します。

### 〔練習問題1〕

【サンプル①】貸借対照表（BS）と【サンプル②】損益計算書（PL）を使用して、ROE（自己資本利益率）を算出してみましょう。

( )

(2) ROA (総資産利益率) (リターンオンアセット)

収益性分析で用いられる株価指標の一つであり総資産に対する当期純利益の比率です。  
当期純利益 ÷ 総資産 (総資本) × 100 で算出します。

〔練習問題2〕

【サンプル①】貸借対照表 (BS) と【サンプル②】損益計算書 (PL) を使用して、  
ROA (総資産利益率) を算出してみましょう。

( )

### ルール10 最後の大物キャッシュフロー計算書!

キャッシュフロー計算書は企業会計について報告する財務諸表の1つです。  
決算書の主役が「貸借対照表」と「損益計算書」であるのに対し、特別出演の大物俳優  
のようなものです。

このキャッシュフロー計算書 (C/F) は会計期間における資金 (現金及び現金同等物)  
の増減、つまり収入と支出 (キャッシュフローの状況) を営業活動・投資活動・財務活  
動ごとに区分して表示するものです。

キャッシュ・フロー計算書の作成目的は、損益計算書とは別の観点から企業の資金状況  
を開示、すなわち企業の現金創出能力と支払い能力を査定するのに役立つ情報を提供す  
ることと、利益の質を評価するのに役立つ情報を提供することにあるとされています。

【サンプル③】

## キャッシュフロー計算書

【単位：百万円】

<b>I 営業活動によるキャッシュフロー</b>	
税引き前当期純利益	15
減価償却費	5
売上債権の増加	△ 5
仕入債務の増加	20
その他の支出	△ 10
小計	25
法人税等の支払額	△ 7
営業活動によるキャッシュフロー	18
<b>II 投資活動によるキャッシュフロー</b>	
固定資産の売却による収入	140
固定資産の購入による支出	△ 150
投資活動によるキャッシュフロー	△ 10
<b>III 財務活動によるキャッシュフロー</b>	
借入金による収入	40
借入金の返済	△ 20
財務活動によるキャッシュフロー	20
<b>キャッシュの増減額</b>	<b>28</b>
<b>キャッシュの増減額期首残高</b>	<b>22</b>
<b>キャッシュの期末残高</b>	<b>50</b>



### (1) 営業キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローです。

本業による収入と支出の差額を表します。

つまり、本業を行った結果に、手元のお金がいくら増減したかがわかる項目です。

この項目の合計額がプラスの会社は、本業が順調であると判断できます。

逆にマイナスの会社は、本業で苦戦しており、現金不足で苦しんでいることがわかります。

### (2) 投資キャッシュフロー

投資活動によるキャッシュフローです。

営業活動以外での資産に関わるすべての資金の動きを示します。

主に固定資産の取得や資金の貸付による資金の増減、他社への資本投資に関して記載します。

### (3) 財務キャッシュフロー

財務活動によるキャッシュフローです。

営業活動以外での負債と純資産の部に関わるすべての資金の動きを示します。

主に借入金による調達や返済の増減、自社の株や債権に関する発行益・配当金・支払・返済などを記載します。

経営分析・経営効率分析（計算演習）

【資料 1】

貸借対照表

【単位：百万円】

資産の部		負債及び純資産の部	
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
現金	1,000	買掛金	1,000
普通預金	2,000	短期借入金	2,000
売掛金	3,000	流動負債合計	<b>3,000</b>
流動資産合計	<b>6,000</b>		
		<b>【固定負債】</b>	
<b>【固定資産】</b>		長期借入金	1,000
土地・建物	555	固定負債合計	<b>1,000</b>
有形固定資産合計	<b>555</b>		
ソフトウェア	67	<b>負債合計</b>	<b>4,000</b>
無形固定資産合計	<b>67</b>	株主資本	<b>3,588</b>
子会社株式	1,000	資本金	<b>500</b>
投資その他の資産合計	<b>1,000</b>	資本剰余金	<b>1,722</b>
固定資産合計	<b>1,622</b>	資本準備金	1,722
		利益剰余金	<b>1,366</b>
		利益準備金	122
		その他利益剰余金	1,244
		評価・換算差額等	<b>34</b>
		その他有価証券評価差額金	34
		<b>純資産合計</b>	<b>3,622</b>
<b>資産合計</b>	<b>7,622</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>7,622</b>

## 【資料 2】

### 損益計算書

【単位：百万円】

科目	金額
売上高	5,122
売上原価	2,165
<b>売上総利益</b>	<b>2,957</b>
販売費及び一般管理費	2,211
<b>営業利益</b>	<b>746</b>
営業外収益	17
営業外費用	62
<b>経常利益</b>	<b>701</b>
特別利益	50
特別損失	97
<b>税引前当期純利益</b>	<b>654</b>
法人税、住民税及び事業税	332
法人税等調整額	△ 38
<b>当期純利益</b>	<b>360</b>

### 【経営分析】

①自己資本比率＝自己資本÷総資産×100

( )

②流動比率＝流動資産÷流動負債×100

( )

③売上高営業利益率＝営業利益÷売上高×100

( )

### 【経営効率分析】

①ROE（自己資本利益率）＝当期純利益÷自己資本×100

( )

②ROA（総資産利益率）＝当期純利益÷総資産×100

( )

### 【資料3】

単位:百万円

項目	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
売上高	56,230	55,501	58,004	46,304	41,079
売上総利益	31,069	30,598	30,830	24,720	20,942
売上比	55.3%	55.1%	53.2%	53.4%	51.0%
販売費及び一般管理費	30,224	30,999	30,391	29,316	26,076
売上比(販管费率)	53.8%	55.9%	52.4%	63.3%	63.5%
運賃	1,521	1,550	1,567	1,497	1,454
売上比	2.7%	2.8%	2.7%	3.2%	3.5%
広告費	3,417	3,860	2,795	2,870	2,262
売上比	6.1%	7.0%	4.8%	6.2%	5.5%
人件費	10,686	11,009	11,156	10,312	8,814
売上比	19.0%	19.8%	19.2%	22.3%	21.5%
賃借料	10,175	10,161	10,143	10,132	9,486
売上比	18.1%	18.3%	17.5%	21.9%	23.1%
その他	4,425	4,419	4,730	4,505	4,060
売上比	7.9%	8.0%	8.2%	9.7%	9.9%
営業利益	845	-401	439	-4,596	-5,134
売上高営業利益率	③	-0.7%	0.8%	-9.9%	-12.5%
経常利益	1,004	-242	633	-4,436	-5,144
売上高経常利益率	1.8%	-0.4%	1.1%	-9.6%	-12.5%
当期純利益	856	437	359	-4,567	-7,259
売上高当期純利益	1.5%	0.8%	0.6%	-9.9%	-17.7%
流動資産	26,595	30,312	29,325	22,094	18,163
固定資産	21,062	16,398	16,386	15,591	11,005
総資産	47,657	46,710	45,711	37,685	29,168
流動負債	8,433	9,518	8,828	7,633	6,354
固定負債	2,973	2,527	2,419	4,027	5,167
純資産	36,251	34,665	34,464	26,025	17,647
自己資本比率	①	74.2%	75.4%	69.1%	60.5%
流動比率	②	318.5%	332.2%	289.5%	285.9%
ROE(自己資本利益率)	④	1.3%	1.0%	-17.5%	-41.1%
ROA(総資産利益率)	⑤	0.9%	0.8%	-12.1%	-24.9%

■ 応用問題

【経営分析・経営効率分析】

※小数点第一位を四捨五入で算出してください。

①自己資本比率＝自己資本÷総資産×100

( )

②流動比率＝流動資産÷流動負債×100

( )

③売上高営業利益率＝営業利益÷売上高×100

( )

④ROE（自己資本利益率）＝当期純利益÷自己資本×100

( )

⑤ROA（総資産利益率）＝当期純利益÷総資産×100

( )

【資料4】

■ 損益分岐点売上高

$$\frac{\text{固定費}}{(1 - \text{變動費率})}$$

■ 變動費率

$$\frac{\text{變動費}}{\text{売上高}}$$

■ 損益分岐点比率 (%)

$$\frac{\text{損益分岐点売上高}}{\text{売上高}}$$

■ 限界利益

$$\text{売上高} - \text{變動費}$$

■ 限界利益率 (%)

$$\frac{\text{限界利益}}{\text{売上高}}$$

## 【資料5】

## 〇〇〇〇の貸借対照表

【単位：円】

資産の部		負債の部	
<b>【流動資産】</b>	<b>【20,001,723】</b>	<b>【流動負債】</b>	<b>【9,602,982】</b>
現金・預金	9,865,857	買掛金	2,349,643
売掛金	5,952,050	短期借入金	2,255,181
商品・製品	548,810	未払金	3,175,259
原材料	2,646,486	預り金	555,099
仮払金	61,870	未払消費税等	1,267,800
前払費用	871,500		
リサイクル預託	55,150		
<b>【固定資産】</b>	<b>【18,814,264】</b>	<b>【固定負債】</b>	<b>【28,618,510】</b>
(有形固定資産)	(13,087,021)	長期借入金	26,024,000
建物	7,309,842	役員借入金	2,594,510
付属設備	458,455	<b>負債合計</b>	<b>38,221,492</b>
構築物	278,237		
機械装置	1,552,718		
車両運搬具	2,539,158	<b>純資産の部</b>	
什器備品	287,952	<b>【株主資本】</b>	<b>△ 57,491</b>
設備造作	660,659	資本金	3,000,000
(無形固定資産)	(326,121)		
電話加入権	326,121	(利益剰余金)	(△3,057,491)
(投資その他の資産)	(5,401,122)	その他利益剰余金	△ 3,057,491
出資金	100,000	繰越利益剰余金	△ 3,057,491
差入保証金	529,136		
敷金	4,120,000	<b>純資産合計</b>	<b>△ 57,491</b>
<b>資産合計</b>	<b>38,164,001</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>38,164,001</b>



### 【3つの会計基準】

会計基準名	のれん代償却
日本基準	定期償却
米国会計基準（USGAPP）	償却禁止
国際会計基準（IFRS）	償却禁止

※国際会計基準（IFRS）の採用企業（準備中含む）約 120 社

#### （1）のれん代とは何か

純資産の額が仮に 100 億円の企業を買収する場合、必要な金額は、会計上では、その 100 億円で足りるはずですが、実際には 100 億円より多い金額が必要となるケースが大半です。

それは買収先の企業には帳簿には表れないブランド力や販売力、製品開発力といった 見えない資産 が潜んでおり、買収企業はこうした見えない資産も同時に手にすることができるからです。そのため、その価値をプレミアムとして純資産額に上乗せします。

こうした見えない価値を会計上「のれん」と呼びます。のれんは、商家や料亭などの歴史や格式などの象徴である暖簾から発した用語ですが、会計上ののれんは正規の勘定科目であり、無形固定資産として資産計上します。

上場企業約 3,600 社の 2016 年末時点におけるのれん計上額は 29 兆 2,000 億円のぼるといわれています。この額は、上場企業全体の利益額に迫る水準であるという分析もなされています。

## (2) のれん代の償却とは何か

前例でのれんの価値が40億円と算定されれば、買収額は純資産額を合わせた140億円となり、のれんの40億円は無形固定資産として計上します。

しかし、のれんは物理的には存在しません。また買収時には価値のあったブランド力も、何年か経過するうちに価値が低下してきます。例えば、買収から20年経過すれば、買収時に40億円あったのれんの価値も、ほとんどゼロになっている可能性もあります。そのため、日本の会計基準ではのれんは20年目までには価値がゼロになると仮定し、毎年一定額を減額するルールになっています。

前例では「40億円÷20年＝2億円」を毎年減額することになります。

そして、この2億円は、その期の販売管理費として計上します。

これをのれん償却費といいます。のれん償却費を販売管理費として計上すれば、当然ながらその金額だけ利益が減ることになります。

これをまとめると以下ようになります。

- ①企業を買収すると、買収先企業の見えない価値の分、のれんが発生する。
- ②計上したのれんは、その後は費用として計上しなければならない。
- ③そのために利益が減る。

これに対し、「米国会計基準」と「国際会計基準」では、のれん代の償却が禁止されています。つまり、毎年2億円ずつの費用計上が不要となり、その分の利益が減らないわけです。このメリットを考えて積極的なM&Aを実施する企業は国際会計基準への移行を進めているわけです。

但し、のれん代の価値が減少した場合には無形固定資産の金額を減少させて対応します。

(これを減損損失と言います)